

虚^{きよ}往^{おう}実^{じつ}帰^き

『莊子』徳充符より

傳燈館 完成

当山住職より発願され、昨年の十一月頃より建設が始まりました、地域交流施設「傳燈館」がついに完成しました（下写真）。

傳燈館完成につき、今回の平福寺だよりでは、傳燈館の施設について紹介していきたいと思えます。まず、玄関を開けた先には約八畳の「土間」が有ります。囲炉裏等を設置して団欒スペースにしたり、味噌を作ったり、餅つきをしたり、自由に使っていただけ

ます。土間の右側は「台所」です。充分なスペースが有りますので、広々と利用可能です。コロナの収束後は地域の方を招き、季節の食

長く寒い冬も終わり、桃の蕾が段々と膨らみ始め、本格的な春の訪れを近くに感じる毎日です。さて、先日行われました「北京オリンピック・パラリンピック」では、長野県出身の選手を始め、多くの日本選手が世界の舞台で活躍しました。近頃は新型コロナウイルスの感染拡大など、息の詰まる生活が続いておりますが、そんな中での明るいニュースは、見えていて大変多くの元気を頂きました。コロナ過で大変な毎日ですが、日の丸を背負って最後まで戦い抜いた選手達のように、気持ちで負けないよう強くありたいものです。



べ物や郷土料理等を行事に合わせて作ることが出来たらと考えております。

土間の左側は約三十二畳の「広間」があります。天井が四メートルあるので、とても広いスペースとなっております。会議や集会はもちろん、ヨガや体操など、ちよつとした運動にもご利用いただけます。また、これまでは行事等で葬儀・年忌法要をお寺で行うことが出来ない事がありましたが、傳燈館の完成により、そうした事にも対応が可能となりました。ご入用の際には気軽に相談していただければ幸いです。

（裏へ続く）



(続き) 広間の隣には五畳の

“和室”があります。控室や更衣室として利用したり、お通夜などで仮眠室として利用できます。さらに当施設には風呂場も完備しておりますので、宿泊施設として貸し出すことも考えています。親戚の集まりや急な来客で、近くの宿を探している場合に選択肢の一つとして当施設を利用していただければ幸いです。

お寺とは本来、葬儀や法事を行う時だけ関わり、頼られる場所ではありません。常に身近な存在で、寄り添い、支えることが出来る家族や親戚の延長のような存在だと考えております。当施設は地域交流施設という事で、そうした関係を皆様と築いていく一つの起点となればこの上ない幸いです。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

また、傳燈館建立に先立ちまして、館銘板を檀徒の二木警三副会長より寄贈していただきました。この場を借りて感謝申し上げます(右下写真)。



寄贈された館銘板

檀徒総代任期満了

本年度末で三年間の任期である檀徒総代が切り替えとなります。中村守保会長始め、本部役員、監事、総代役員の皆様には当山平福寺の運営に中心となってご尽力いただき、誠に有難うございました。また、来年度より新たに総代役員になられました皆様、コロナの渦中で何かと大変な時期ではありますが、どうぞよろしくお祈りします。



今回のお言葉

今月号のお言葉は、中国の思想家であり、書物の名前にもなっている「莊子」のお言葉です。

虚往とは頭の中を空にして出掛けること、実帰とは十分に満たして帰ることです。つまり知識がない状態で出掛け、出掛け先で多くの教えを受け、十分に満たされて帰るという意味です。「虚しく行き実にして帰る」とも読みます。

お大師様も唐に渡られた経験について、この言葉を用いて表されています。お大師様は日本を発つとき、密教の右も左も分からぬ状態だったと言います。たくさん不安を抱きながらも、青龍寺の恵果和尚と出会い、密教の全てを授かります。その後満を持して日本に帰国されました。お大師様の入唐は、まさに「虚往実帰」の旅路であったのです。

年間行事

- 一月 厄除け祈願大祭
- 三月 春季彼岸会・涅槃会
- 四月 研修旅行
- (阿字の子会主催)
- 五月 春季例祭・大般若会
- 七月 高野山参拝旅行
- 八月 夏季例祭・大施餓鬼会
- 九月 秋季彼岸会
- 十二月 二年参り

お知らせ

傳燈館落成にあたり、寄付勧進中です。【10：一萬元】より受けさせて頂きます。寄付者のご芳名は館銘板裏に記載させて頂きます。

ホームページ

下のQRコードよりサイトに移動できます。※周りの方に広めて頂けたら幸いです。

